



十和田市立中央病院

病院ニュース さわらび

平成 31 年新春号



新年の挨拶



「患者さんに親切」ということ

十和田市立中央病院
病院事業管理者

まつ の せい き
松 野 正 紀

明けましておめでとうございます。

年頭に当たり、若かったころに思ったことを述べてみたいと思います。大学を出て、ようやく医療の現場に携わるようになった頃の思いです。当時はあまりはっきりした根拠もなく、「親切な医療人」でありたいと思ったものでした。ここでいう親切とは、周りに気配りが出来て思いやりがある程度のことでした。

しかし、臨床の現場では様々なことが起こります。順調に回復していく人がほとんどですが、中には不幸な転帰をとる方もいます。その原因が、自分を含めて施療者の知識の不足や技術の至らなさにあるように思われるようなときもあり、次第にそういう現実を学ぶようになりました。患者さんにとっては沢山のやさしい言葉より、無事苦痛から解放されてなんぼの世界なんだということでした。

そうして、親切な医療人になるためには、配慮が行き届いて優しいだけでは駄目なのではないかと思うようになりました。医療に携わる人の本当の親切とは、深い知識と高い技術の裏付けがあっはじめて成り立つものと確信するようになりました。

それ以降は、「患者さんに親切」であるためには、「1に正確な知識と技術、2に最新の知識と技術、3、4が無くて、5に親切」を行動目標としてやってきたように思います。このことは、いつも楽な方に流れようとする怠惰な自分の軌道修正に大いに役立ったのではないかと考えています。

病院の幹部会議では月一度のペースで、患者さんからのアンケート結果が看護局長から報告されます。中には厳しい指摘もありますが、最近は、「よくしていただき感謝しています」が圧倒的です。みなさんの努力が高く評価されているようです。大変素晴らしいことです。

チーム医療が提唱されて大分経ちます。チームを構成する個々のスタッフがそれぞれの専門領域のスキルアップに努め、高いレベルのチーム医療を実践することによって、さらに洗練された「患者さんに親切」な病院にしていきましょう。

